

パルボウイルス感染症とは

パルボウイルスが体に侵入すると、細胞分裂が盛んな骨髄や腸、リンパ節などで増殖して症状を引き起こします。特に免疫力の未発達な子犬・子猫の内に感染すると急速に衰弱し、死亡率が高い疾患です。

《症状》

- ・白血球減少
- ・貧血
- ・下痢…出血を伴う場合もあります
- ・嘔吐
- ・発熱
- ・食欲廃絶
- ・体重減少 等



《感染経路》

ウイルスは糞便中に排出されます。1gの糞便中に100万ものウイルスが排出され、且つわずかなウイルスの侵入で感染が起こるため、爆発的に感染が広まります。

共同生活を行うペットショップ、ブリーダー、猫カフェなどで流行しやすいです。

わずかな便の飛沫が靴や服、手指に付いただけでもウイルスを持ち帰ってしまう恐れがあります。

《治療》

確立された有効な治療法が無く、二次感染を抑えたり体の状態を整えることで衰弱させないことが中心となります。

◆ 点滴、抗菌剤投与など

白血球減少により細菌と戦う力が弱まっているため、容易に二次感染を起こしてしまいます。抗菌剤で細菌への抵抗力を補助します。

また下痢、嘔吐により脱水してしまうため、点滴を行います。食事を摂れない期間が長い場合ビタミンやアミノ酸を含む点滴を行う場合もあります。

◆ 抗ウイルス剤、インターフェロン

特効薬ではありませんが、有効なことがあります。

感染初期は、ウイルス感染をした細胞とまだ感染を受けていない細胞とがあります。

インターフェロンはまだ感染を受けていない細胞を抗ウイルス状態にし、感染を受けてもウイルスの増殖を防ぎ、ウイルスの消滅を期待するものです。

ウイルスに対して直接働くお薬ではないものの感染初期であれば効きやすいとされています。

《予防・消毒》

パルボウイルスにはワクチンがあり、定期的な接種で予防できます。

同居の子がいたり、他の子と接触する可能性がある場合は住環境や感染した子が使った食器などを十分に消毒する必要があります。

パルボウイルスは**環境中で長期間生存できる、耐性が非常に強いウイルス**です。アルコールでは消毒できず、次亜塩素酸ナトリウム（ハイターなど）を希釈したものに30分以上漬け込むことで消毒できます。

次亜塩素酸ナトリウムは金属を錆びさせたり、布類を脱色してしまいますので、食器やタオルなどは可能であれば都度新しいものを使った方が安心です。

感染した子に触る際は手袋やガウン等の防護を行い、触った後は速やかに着替える必要があります。